

大学院GP「現職教員の高度実践構想力開発プログラム」を通した学校心理士養成 I

～北海道教育大学大学院GPプログラムの特徴～

○植木克美*・跡部敏之**・橋本道子**・後藤広太郎*

坂野久美子**・川端愛子**・後藤 守*・三上勝夫**・庄井良信**

(* 北海道教育大学大学院 **小樽市立稲穂小学校)

1 はじめに

北海道教育大学の「現職教員の高度実践構想力開発プログラム」は、文部科学省の大学院教育改革支援プログラムとして採択され、平成 19 年度から 3 年計画で取り組んでいるプログラムです。このプログラムを、北海道教育大学大学院教育学研究科学校臨床心理専攻の在籍院生・修了生である現職教員を対象に実施しています。そして、現職教員の高度な実践構想力の涵養を図ること、すなわち、現職教員が学校現場の課題を明確化し、対応プログラムを立案して、学校内外の関係者の力を結集させ課題へアプローチする能力の開発を進めています。「高度な実践構想力」は、心理教育的援助サービスの専門家である学校心理士に通底する能力であり、プログラムでは学校心理士の資格取得を組み込んだ教育体系を整備しています。そして、プログラム選定理由として「学校現場で問題となっている、派遣されたカウンセラーと現場教員との齟齬を解消する手段として、現場の教員を対象に、臨床心理士、学校心理士、臨床発達心理士などの幅広い資格取得を視野に入れた教育体系が整備されている点」があげられています。本

発表では、プログラムを通した学校心理士養成を検討します。発表 1 ではプログラムの特徴と学校心理士養成を、そして、発表 2 では「教育臨床実践メンター」による、現職教員院生への教育実践・研究支援を通した学校心理士養成を検討します。

2 北海道教育大学大学院GPプログラムの特徴

プログラムの特徴は、次の 6 点です。

- (1) 研究的実践者を「教育臨床実践メンター(以下、メンターとする)」として登用し、現職教員院生の教育実践支援を定期的なメンタリングにより支援する。(2) 実践的研究者である大学教員が「勤務校訪問型スーパーバイザー」を行い、実践における研究主題の掘り起こしと研究の遂行を支援する。(3) 研究論文作成を 5 期に分け、大学教員、教育臨床実践メンターが緊密な連携をとって支援体制を組む。(4) (1)と(2)をプログラムの両輪として機能させるために、教育臨床実践メンターと大学教員が協働して FD 活動を展開する。(5) 院生の実践知が豊かに交流し合うために、院生同士の協働研究を支援し、院生の自立的研究遂行能力やプロジェクトの企画・マネジメント能力を高める。(6) 教育プログラムの成果を情報メディアにより積極的に発信し、大学院全体の教育の実質化に寄与する。

表1 平成 21 年度プログラム実施担当者

大学改革担当	蛇穴 治夫 理事
関係部局	阿部哲夫(総務課長) 佐々木国博(総括主査) 竹見吉弘(企画課長) 立花捨美(GP 等支援室)
サテライト校関係	三上山 高(札幌市立北九条小学校校長) 高橋政人(札幌市立北九条小学校教頭) 氣田幸和(札幌市立北九条小学校教諭・本学大学院学校臨床心理専攻修了生)
実施担当代表	庄井良信(大学院学校臨床心理専攻教授学校臨床心理学講座・臨床教育学)
実施担当副代表	植木克美(大学院学校臨床心理専攻教授学校臨床心理学講座・学校臨床心理学)
実施担当者	森 範行(大学院学校臨床心理専攻准教授学校臨床心理学講座・臨床心理学) 佐藤由佳利(大学院学校臨床心理専攻准教授学校臨床心理学講座・臨床心理学) 藤友雄暉(函館校幼児教育講座教授・大学院学校臨床心理専攻・発達臨床心理学) 内島貞雄(旭川校幼児教育講座教授・大学院学校臨床心理専攻・幼児教育学) 平野直己(札幌校学校教育講座准教授・大学院学校臨床心理専攻・臨床心理学) 伊田勝憲(釧路校学校教育講座准教授・大学院学校臨床心理専攻・教育心理学) 三上謙一(保健管理センター講師・大学院学校臨床心理専攻・臨床心理学)
相談・研修担当専門員	跡部敏之(星槎国際高等学校相談役・元北海道立特殊教育センター所長・特別支援教育)
相談・研修担当専門員	後藤 守(北海道教育大学名誉教授・発達臨床心理学)
相談・研修担当専門員	三上勝夫(北海道教育大学名誉教授・教育学)
教育臨床実践メンター	後藤広太郎(本学大学院非常勤講師・特殊教育／臨床心理学・博士(教育学))
教育臨床実践メンター	橋本 道子(元本学大学院非常勤講師・特殊教育／臨床心理学・博士(教育学))
プログラム担当職員	川端 愛子(元札幌市教育センター教育研究員・学校臨床心理学)

3 北海道教育大学大学院GPプログラムを通じた学校心理士養成の概要

表1が、プログラムの平成21年度実施担当者で、学校心理士有資格者が参画しています。プログラムでは、高度な実践構想力の涵養を図るために、学校臨床心理学・臨床教育学科目群を中核にし、教育学、教育心理学、臨床心理学、障害児教育学の4領域にわたる科目からカリキュラムを構成しています。そして、専門性の高い学校心理士の受験資格が得られるよう履修科目を設定しています(図1参照)。

4 北海道教育大学大学院GPプログラムを通じた学校心理士養成の実際

この7年間に、学校臨床心理専攻の院生・修了生が学校心理士資格を取得し、北海道支部93名中21名を占めています。取得者の勤務先は、幼稚園、小・中・高等学校、特別支援学校、教育委員会等の学校関係そして、医療機関です。職名は、養護教諭、管理職を含めた教員、スクールカウンセラー、特別支援教育巡回指導員等です。

プログラムでは、現職教員のリカレント教育を研究ベースで進め、教育実践を普遍的、体系的「知」へ結実させることを目指して、修士論文指導を展開しています。具体的活動として、プログラムの特徴(1)と(2)により、大学教員とメンターの協働による開放系の教育実践・研究支援を行っています(図2参照)。そして、この教育実践・研究支援を通して学校心理士養成、実践ケースのスーパーヴィジョンを進めています。

メンターは、大学教員による勤務校訪問型スーパーヴァイズに同行し、現職教員院生の研究主題の明確化と研究の遂行を支援するプロセスに参画

しています。そして、現職教員院生、大学教員とのディスカッションを主体として、発表で検討する4形態のメンタリング活動を展開し、高い研究的専門性をもって現職教員院生により近い立場からサポートを行っています。

学校臨床心理専攻の現職教員院生は、教育実践をふりかえり、実践知を理論知を通して検証し、その成果を教育実践に還元していくことを目指し入学してきます。大学教員とメンターによる開放系の教育実践・研究支援により、学校心理士資格を取得した3ケースでは、勤務校訪問型スーパーヴァイズとメンタリングを定期的を実施し、学校臨床心理学分野の修士論文をまとめています。そして、修士論文で扱っているスーパーヴィジョンを得て行った実践ケースを学校心理士資格審査に申請し、資格取得に結び付けています。学校心理士資格取得者は、通常学級教員、通級指導教室の担当教員、養護教諭、特別支援教育コーディネーターとして、心理教育的援助サービスに携わっています。

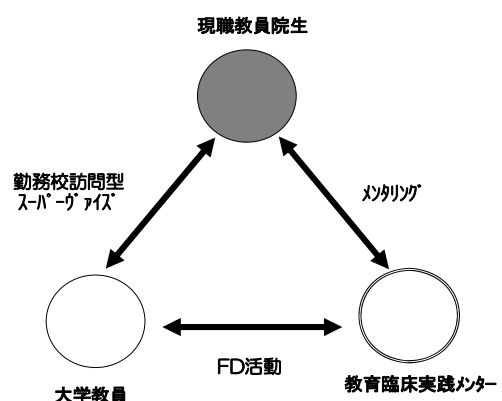


図2 大学教員・教育臨床実践メンターの協働的支援

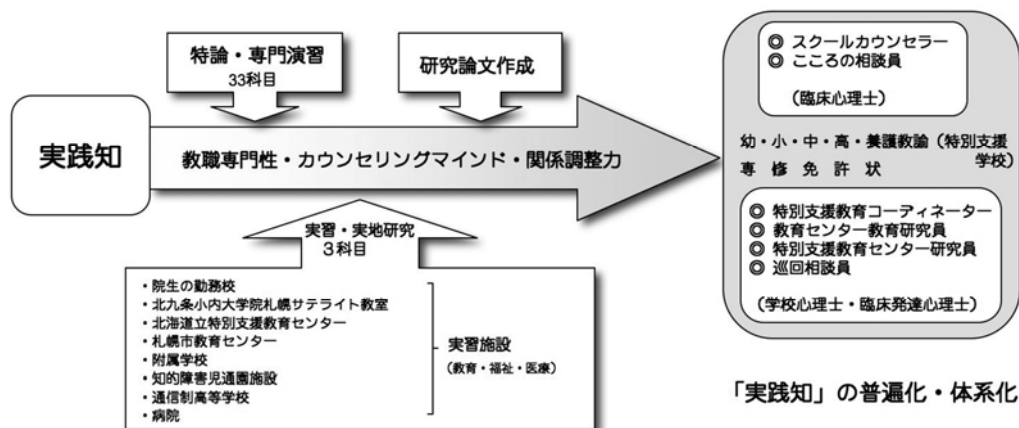


図1 高度な実践構想力の涵養を図る教育課程